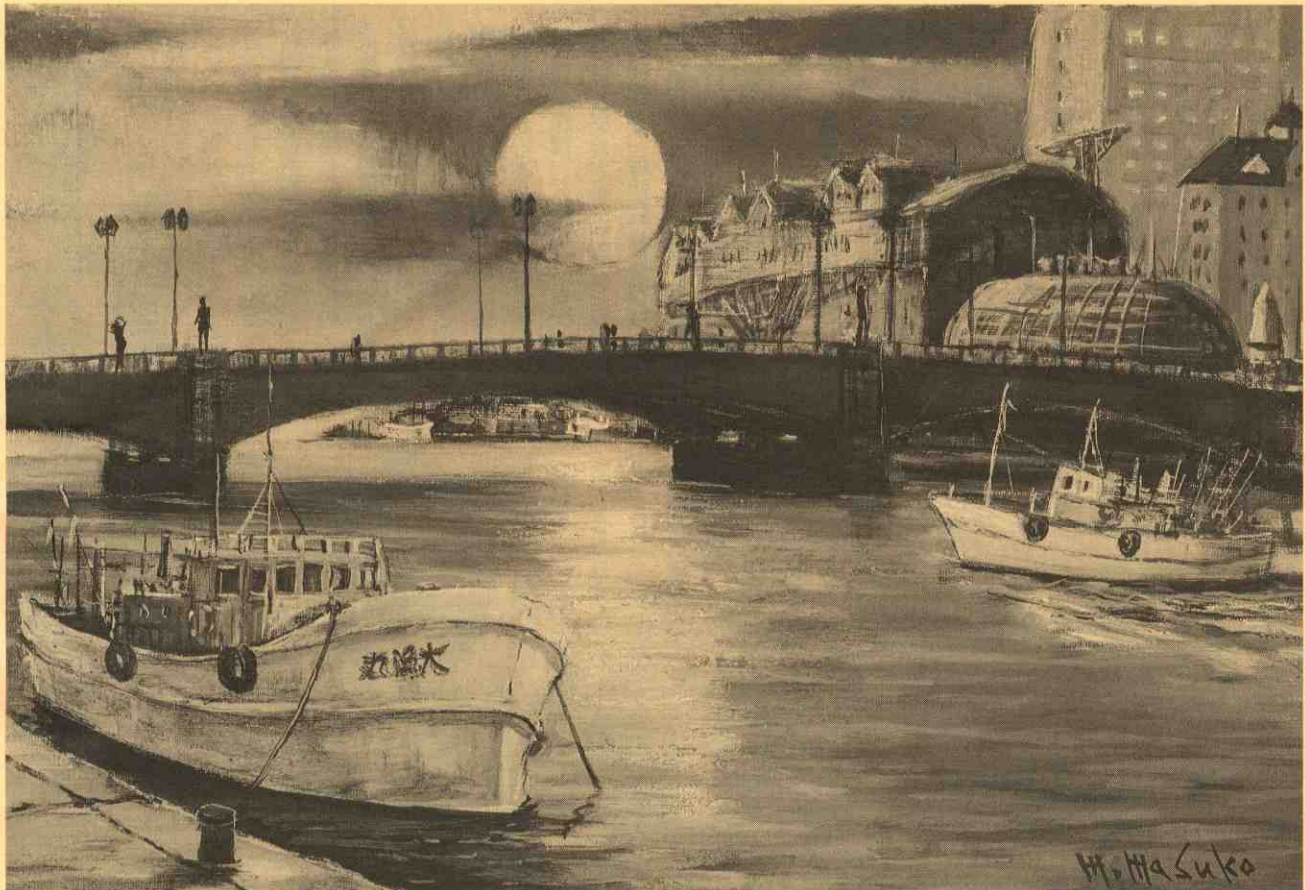




第45号  
 発行  
 釧路湖陵同窓会  
 くまざさ編集委員会  
 発行日  
 平成16年8月14日  
 印刷所  
 藤田印刷(株)



「くまざさ」の指針

組村真平元会長「創刊の辞」

昭和54年11月の同窓会役員会で中村隆前会長より「若返り」を力説され、同窓会長組村真平が誕生した。

同窓会館の建設・同窓会報の発行・若手会員にも魅力ある会への脱皮・会員予備軍（在校生）との接触強化などが提案議決され私達は自縄自縛的に忙がしくなった。そして、この会報創刊号の発行が、その実行の第一弾である。

中川久平元会長時代は一度会報の発行が企画され第一号が出たという話もあるが、もう二十数年も前のことで現物も残っていないので、それは「幻の創刊号」と名付け、敢えてこの会報を湖陵同窓会報創刊号と銘打たせて戴くことにした。

この会報が、それを通じて同窓会が今どのように動いているか、各支部の動向はどうか、会員は会をどのように見ているかなどを的確に知るよすがとなり、同窓会が会員のより身近かな存在になる、そういう役割を果す会報であることを念じたい。

この組村真平の創刊の辞によりこれまで24年間・45号まで絶え間なく引継がれてきたのである。編集方針の指針として、絶えず守られてきた。今後これも「くまざさ」の続く限り永遠に引継がれるのである。

<b>目次</b>	相場真一氏 顕影碑…………… 2頁	東京・札幌から…………… 6頁
	十勝支部便り…………… 3頁	学園だより04 …………… 7頁
	釧中32期 誠愛勇から …… 4.5頁	当番期だより・編集後記…………… 8頁





相場さん

釧路湖陵高校の生徒玄関は校舎の中央にあります。毎日、生徒たちを時には厳しく、そして温かく迎え、送り出すのが、玄関前にある校歌の石碑です。

この石碑は、ブラジルを第2の祖国とした相場眞一さん(釧中8期(大正14年卒))が、寄贈しました。除幕式が富士見町の前校舎で行われたのは平成元年3月20日のことです。当時、校長を務められていた町田康雄さんから寄贈に至るまでの経過をお伺いしました。

昭和61年5月、相場さんは来日した際、同期の丹葉節郎さんと、「母校」に対する思いを語り合いました。丹葉さんとの願いは一つ、「後輩たちには世界に羽ばたいてほしい」ということで、その象徴が、「ブラジルの石」です。

当初の計画では、世界三大瀑布の一つでブラジルとアルゼンチン、パラグアイの国境にまたがる「イグアスの滝」の岩石を石碑にする予定でした。そこで相場さんは、自家用飛行機を現地に飛ばし、入念に下見をしました。しかし、適当な石が見つからず、自身で持

# 世界にはばたけ湖陵生

## 校歌石碑物語

ついでに滝近くの花こう岩を送る事になりました。「イグアスの石」は幻に終わりましたが、丹葉さんと相場さんの後輩たちを思う気持ち、この石にしっかりと込められました。

石は見つかりましたが、今度は校舎に設置する許可が、北海道教育委員会ではなかなかおりません。

町田さんは、「相場さんが高齢であり、学んだ地に設置するべき。生徒たち、特に卒業を控えた3年生が待ち望んでいる」と道教委の担当課長に説明を繰り返しました。が、「新校舎が完成するまで待つて下さい」の一点張りです。そこで町田さんは担当課長の前から1歩も動かない作戦にでました。数時間経過し、町田さんの熱意が通じ、やっと担当課長の口から「許可」の言葉がでてきました。

昭和62年8月の同窓会総会では、石碑設置に伴う費用負担について提案されました。ブラジルから船積みし、湖陵高校までの運送費は相場さんが負担し、歌詞刻字、台座費用などは同窓会が負担することになりました。相場さんは、当初、全額負担することも考えて

いたようですが、「彼の顔を立てなければ」と、地元での費用は、丹葉さんに任せようです。



町田さん

さて、昭和63年7月2日、ブラジル・サントス港を出発した石

は、2カ月後に釧路に到着しました。9月3日、丹葉さんや校歌を作曲した菅原覚也さんの長男で本行寺住職の式也さん、同窓会会長(当時)の長内宏さんをはじめ、同窓生が集まり、石が披露されました。その大きさは、横1・8メートル、高さ1・1メートル、幅40センチ、重さ3・1トンにも及びます。石碑のデザインは、美術の中田千年さんが担当しました。校歌は、長内会長の揮毫で、また、町田さんによる「石碑の由来」もしっかりと刻み込まれました。除幕式は、平成元年3月20日に行われましたが、その際、昭和3年から60年にわたり唱い継がれている「日出づる国の...」の校歌が斉唱され、石に魂が入りました。

(星 匠)

長内宏元同窓会会長

ブラジルから石が届いた時にはたいへん感激しました。また、校歌を書く際には、とても緊張したことが思い出されます。さて、校舎正面には、校歌の石碑とともに、2代目校長の阿部與作さん、初代同窓会会長の中川久平さん(釧中1期)



の銅像が、「学ぶ姿勢」を生徒たちに教えています。中でも校歌には、恩師の指導や徳を学ぶこと、友人との絆を深める湖陵健児の精神そのものを伝えていきます。そうした精神を受け継いだ生徒、同窓生のみならず、郷土の発展のために尽くしてほしいと思います。

相場 眞一 (あいは・しんいち)

1908年足寄町生まれ。1925年旧制釧路中学校、1928年小樽高等商業学校(現小樽商科大学)卒業。1930年ブラジルに入植。1958年帰化。1934年ブラジル拓殖組合入社。1947年南米銀行へ転属、副頭取などを経て1980年経営審議会会長。そのほか、南米安田保険会社社長、ブラジル日本文化協会会長なども務める。昭和53年(1978年)勲四等瑞宝章「在留邦人の福祉功労」を受章。



生徒たちを見守るブラジルからの石碑



# 十勝支部便り

会長 佐藤文俊（湖陵17期）



平成16年3月20日開催の湖陵同窓会十勝支部で、河崎弘会長（湖陵1期）の後任として会長に就任いたしましたのでよろしくお願いたします。

十勝同窓会は42年前、十勝在住の釧路卒業の先輩たちが中心となり発足したのが始まりで、初代幹事長の真鍋四郎外科医院院長（釧路27期）が、組織作りと会員把握に大変苦労されました。

年一度の親睦会には、「故郷釧路」ということから釧女・江南の同窓生にも声をかけられ、以来39年間、ユニークな「釧中・釧女・湖陵・江南合同交礼会」として開催されてきました。しかし、高齢化など諸般の事情により、3年前から湖陵単独の開催となりましたことは残念であります。

交礼会以外には、親睦ゴルフ大会を3回開催しておりますが、今一番の課題は、総会や懇親会に、いかに多く参加してもらうか、特に若い年代の同窓生の方々の参

加を多くするかであります。地元でないことから、絶対数には限りがあるわけですが、現在会員数は130名です。把握できない同窓生の方々が、相当数いるものと思われまますので、同窓会本部の名簿掌握と連動する方法を検討できればと思われまますので、同窓会皆様

の職場・知人などで、十勝在住の方々と転勤などで転入された方々の情報をいただければと思われまます。 私たち湖陵17期が入学した昭和37年に、創立50周年記念式典が開催されました。当時、釧路1期中川久平同窓会会長が、「全国に旧制中学数々あれど、我が釧路湖陵健児は日本で最初に朝日を仰ぐのである。そのことを肝に銘じて文武両道に励むべし・・・」と熱弁されたことを記憶しております。この年には、50周年記念図書館が完成し、大いに利用させていただきました。

いよいよ創立百周年（平成25年）がカウントダウンとなり、同期の栗林延次同窓会会長が中心となり、百周年記念事業の準備に着手することが、「くまざさ44号」に掲載されておりました。我々十勝同窓会も身の丈程度ですが、できる限りの協力をしていきたいと考えておりますことを申し述べさせていただきます。近況報告といたします。



第42回十勝釧路湖陵同窓交礼会 平成16年3月20日 於 ワシントンホテル

## 湖陵同窓会十勝支部 役員名簿

（任期平成16年4月から18年3月まで）

### 会長

佐藤 文俊（湖陵17期）

### 副会長

藤岡 清次（湖陵10期）

池田 緑（湖陵14期）

### 会計

上田 裕之（湖陵40期）

### 会計監事

竹島 秀明（湖陵4期）

### 幹事長

佐藤 信一（湖陵21期）

### 幹事

土谷富士夫（湖陵17期）

前田 修一（湖陵18期）

島部 優（湖陵21期）

佐治 清（湖陵25期）

半田 聡（湖陵27期）

庄司 智宏（湖陵45期）

### 顧問

真鍋 四郎（釧中27期）

河崎 弘（湖陵1期）

棒田敬之助（湖陵3期）

長谷川 敏（湖陵4期）

※佐藤文俊会長

〒08010013

帯広市西3条南7丁目14番地  
十勝農業協同組合連合会

015512414090



# 愛冠岬の景観や国泰寺へ

## 「修学旅行」も結実



「愛の鐘」をつく釧中32期生

### 故郷を訪ねて懐しさに興奮

まちに待った10月5日午前11時。釧路駅前阿寒バスターミナル前に二年前でも会った学友の顔々。はしゃぐ。何をしゃべったかも分からない。

バス車内の右側へは遠方からの人々に、と。左側に市内の友だち。係担当の気のきいた者が前部に。発車から挨拶の「おう！」「おう！」で若やいだ？ 元気な声。



平成16年10月5日・釧路シーサイドホテル

雪裡橋、別保と通り上尾幌小學校同期の小黒章司、笠巻重司らに思い出し海基倅男、愛澤喜昭と語る。もう尋ねてこれない故郷である。

昼食の厚岸ホテル五味に稲葉善一が歓迎スタイルで待かねている。ビールの乾杯もどかしくカキ飯に喰いつく。久方振りの初宴会。でも旅は始まったばかり。

愛冠岬は初めての人も多く故郷の景観に飽かず眺め入る。国泰寺も太田村屯田兵屋や記念館も説明に聞き入るばかり。(後日に稲葉善一は同窓会館に3万、同期会に2万円を寄付した)

あと久寿里橋、幣舞橋を渡って一夜目のシーサイドホテルへ。ここまで私はたいして呑んでいないはず。車内のワンカップの酒。我が家の近く。我が風呂同然の湯に仲間とつかった。湯舟でおしゃべりし、中村幸雄が出て一人になって湯あたり。裸のまま床に倒れ

「もう俺の人生も終わりか？」  
誰も居ない。誰もこない。  
ようやく我が部屋に浴衣だけでベッドへ倒れ込んだ。

「記念撮影だゾー」  
そんな声を聞き乍ら、じっとしていた。

ようやくにして這うように宴会場へたどりついた。正面に今年表彰された同期生らが紹介されてい

る。撮影のライト、祝杯の音頭。賑やかな末席にたどり着いた。妻が到着。寺島壽薬劑師が丸薬をくれる。呑んだら一ペんに癒った。

酒がすすみ、おしゃべりもすすむ。仲間との話から、この写真、あの文章と自宅へ取りに戻り又、馳けつける。  
宴会場から各部屋に分かれ、騒ぎが分散し、ようやく我が家へ寝りに帰った。

二日目。朝食のサンマ焼きは旬。みんなと一緒でおかわり。

小雨模様となったが本行寺、定光寺の寺町に米町公園、東栄、日進、城山小。そして母校湖陵高と同窓会館などを見学し、千代ノ浦海岸を巡る。時間調整をしながら徳田廣名ガイドがあらゆる知識を披露して、懐しの竹老園で昼食だ。

あとは故郷を離れた友に思い出の橋北、鳥取を見せて湿原展望台から釧路湿原の景観を眺めさせた。

「遊久の里ホテル鶴雅」阿寒湖畔の名湯に浸り、新しい造り、大広間に山海の珍味の料理が並び、飲みや唄え踊れやの大騒ぎ。竜宮城に招かれた浦島太郎の気持そのまま。宴を移しても麻雀、囲碁に酒。最後の夜はいつ果てるとも尽きず。

朝食のバイキングにもみな元気。

### 結実の旅行参加者

—敬称略—

【道外】小谷慶治、愛澤喜昭、小川博、海基倅生、片岡良蔵、近藤暉、佐藤伸一、嶋田昭、相馬是行、中村隆俊(好江)、藤田睦夫、八木宏  
【道内】青柳敏彦、秋葉収、板垣正男、河崎弘、組村真平、齊藤一、田中敬(和子)、辨野友一、滝昌之、寺島壽、塚本保、萩野重利(百々子)、豊島正敏(恵美子)、本間国秀(市内) 稲垣勝美、奥田達也(予志子) 清水闊、白石一男、高木謙吾、飛世春夫、富澤正美、中村幸雄、西田直哉、長谷川芳一、早川静、宮下之良、宮脇彬、宮脇功、徳田廣

秋の阿寒湖は晴れ渡り、紅葉はいまを盛りに彩りをそえている。「クシチュウ32期さまも……」と観光遊覧船のガイドさん。英語は流ちょう、と感心して聞いていた。釧路のクシ。釧中もセンチュウとはもう読んでもらえない時代に入ったのであった。

あとは帰途。雄別炭鉱鉄道記念館を開けてもらい見学し、雄別の友を、また発電所勤務の父をもつ小川博の住居を探し、小中時代の昔を偲んだのである。

最後の宴はパークゴルフ場食堂でジンギスカンとおにぎり。

酒杯を乾して別れを惜むもしきり。釧路空港で友を送り、釧路駅前でお別れした三日間の「結実の集い」であった。





# 「修学旅行」と 15年戦争中の 人を育て

キャンプで楽しんだ仲間ら

よく遊びました。同級生を誘いキャンプへ行った。年々

昭和19年3月、当時私は釧路中学1年、確か春休みの頃と思いますが、釧路港南岸壁に駆逐艦らしい艦が横づけになっているのを望見し、艦が何時出港するか分らないような気がし、急いで2 km程南岸壁まで走っていった記憶が、今でもはっきりと憶えています。

## 青春譜・湖陵ヶ丘

増えて40代にはワゴン車に乗用車を加え道内各地へ三、四泊でキャンプをした。日程から目的地など計画自体が議論と呑み会の楽しみであった。知床、サロマ湖と海浜が好まれた。厚いズツクのテント張り、炉端作り、薪集め、水汲み、炊事と出来る限り原始生活を心掛けた。電気は車のライト位いでランプ生活。

水、焚火で釣魚とウニを満喫する。組村真平リーダーの元、喧嘩ごうごう、議論が続くかと思えば、たわいのない話題を真面目に尋ね合う。

石塚正男、加古章、河村進、北野昭夫、佐藤博、斉藤実、高間英一、塚本保、徳田広、富沢正美、中沢弥一、中村幸雄、西田直哉、宮下之良、森正敏、八木宏、高橋一郎、佐藤軍平、本間国秀ら。

それは今尚「野伏会」として毎月稲垣勝美、砂原正、高木謙吾、高

見る事だったので、わくわくして見に行きました。当日はどんよりとして肌寒い日でした。誰も気がつかなかったのか、見に来たのは私一人でした。ねずみ

員がドアから出入するあわただしい出港風景でした。「ピー、ピー」と呼子が鳴り、急に黒煙を吐いて、音もなく、静かに岸壁を離れ、大きく右に旋回し乍ら、ゆっくりと南防波堤灯台の方へ進み、やがて南、北灯台の間から外洋へ出港していきました。

## 「白雲」最後の出撃を見送った

河崎 弘

色の艦装色に、船腹に塗りつぶした「しらくも」のひらがな字が浮いて見えました。紺色服の士官が艦橋のタラップを上下し、白い作業服、戦闘帽の兵士、司厨

私も岸壁から、防波堤の突端まで走り、一人で見送りしました。外洋に影が消えるまで見送りました。うす暗くなっていたので多分私が岸壁にいたのは、午後の3時〜5時頃ではなかったかと思えます。

(前帯広湖陵会会長)



平成8年10月15日・山中湖にて



昭和63年9月10日



平成14年9月18日・鎌倉大仏前にて



平成5年10月10日・洞爺湖にて

坂弘一、高橋俊幸、中川恒雄、古市時博らを含めて清水閣を会長に当番制で実施している。

「くしろ昭和5年午歳会」の会長などいま尚多忙のなか釧路市議会議員を4期16年間務めた弁舌で同

期の総纏めをする。東京会は佐藤伸一、札幌会は組村真平と連絡をとり乍ら。



# 東京支部

釧路湖陵同窓会東京支部（板本登会長・湖陵16期）の総会は、6月19日に東京都新宿区の日本青年館で開かれました。この日は、梅雨の合間の晴天となりましたが、釧路にはない、うだるような、厳しい暑さではありましたが、約百人の同窓生が参加しました。

釧路からは、栗林延次会長（湖陵17期）、島本幸一幹事長（湖陵



日本青年館での東京支部総会

札幌湖陵会（花田孝磨会長・湖陵17期）の第18回定期総会と懇親会が7月3日、札幌市中央区すすきののキャバレー「エンペラー」で開かれました。

出席したのは、釧中15期から湖陵49期まで324人

## 東京・札幌からも

## 母校への熱い思い

報の年2回発行、名簿の整理、会員の組織化などの事業計画が決

新役員は次の通りです。

19期）、鈴木豊治会計監査（湖陵16期）が、また、札幌湖陵会から花田孝磨会長（湖陵17期）、釧路市役所東京事務所の板橋重幸所長（湖陵28期）も駆けつけてくれました。そして、東京釧中会の、大先輩、12人も出席しました。

今年は湖陵24期が当番です。代表して山本雅和さんが司会を務め、物故者へ黙祷を捧げたあと、校歌を斉唱し、板本会長があいさつをしました。総会では、支部会

で、目標としていた300人を上回り、盛大に行われました。釧路からは、栗林延次会長（湖陵17期）、島本幸一幹事長（湖陵19期）、くまざさ編集委員会の奥田達也委員長（湖陵1期）、東京支部から板本登会長（湖陵16期）、小野研二幹事長（湖陵16期）、小野妙子副会長（11期）が出席しました。

札幌湖陵会が発足したのは、1987年で、当時は500人を超える参加がありました。

## 札幌湖陵会

年々減少する傾向となりました。そこで、花田会長など役員のみならず、各期毎の出席状況を把握し、欠席が目立つ期には、幹事を決めて連絡体制をつくり、目標の300人を達成することができました。花田会長は、「若い世代の掘り起こしを進めた結果です。これから若い人たちに参加を呼びかけて、同窓会を盛り上げていきたい」（釧路新聞7月5日付から）と意欲を語っていました。

総会は当番期の21期を代表して伊藤拓摩さんが司会を務め、物故会員に黙祷を捧げたあと、校歌を

- ▽会長 板本 登▽副会長 小野 妙子（湖陵11期）・大西 勝（湖陵13期）
- ▽幹事長 重康（湖陵17期）
- ▽幹事長 小森 研二（湖陵16期）
- ▽幹事長補佐 木村 良子（湖陵19期）
- ▽会計長 正札 喜久雄（湖陵21期）
- ▽会計監事 滝澤 勝（湖陵13期）
- 山本 雅和（湖陵24期）

※板本登会長  
〒16010013  
東京都新宿区霞岳町15  
日本青年館  
031347512556



エンペラーでの札幌湖陵会

斉唱、花田会長があいさつし、栗林同窓会会長、板本東京支部会長が祝辞を述べ、続いて議事に移り、昨年度の事業報告などが承認されました。

懇親会は島本幹事長の乾杯で始まり、応援歌の披露やアトラクションで、出席者のみなさんは、高校時代の話に花を咲かせて楽しいひとときを過ごしていました。

（星匠）

〒00310001  
札幌市白石区東札幌1条3丁目1番35号  
北海道コカ・コーラボトリング道央支社  
011-842-0509



# 学園だより

同窓生の皆さまいかがお過ごしですか。

「くまざさ」45号発刊に当たり、今年1月からの学校の様子を簡単にお伝えします。

（1月）  
・センター試験。247名の生徒が受験しました。これは在籍生徒の85%に相当します。

（3月）  
・第55回卒業式。319人の生徒が湖陵の誇りと夢を胸に、学窓を巣立ってゆきました。

今回の卒業生の進学実績には特筆すべきことがあります。それは国立大学現役合格者が113名にもおぼり、この結果は90余年の歴史史上2番目の素晴らしい数字であるということです。この結果が一過性のものでなく継続させてゆくために具体的方策をたて指導してゆくことが確認されました。

最後決定人数は次のようになっております。

55回卒業生の最終決定人数	人数		合計
	男子	女子	
国立大学	67	31	98
私立大学	26	65	91
私立短大	2	6	8
専修学校	6	21	27
公務員	1	0	1
民間就職	0	1	1
浪人	49	31	80
未定	5	6	11
合計	156	163	319

・13人の教職員が異動・退職しました。湖陵高校のために力を尽くしていただき、どうもありがとうございました。

（4月）  
・13名の新任教職員を迎えました。  
・平成16年度入学式（新入生282名）

今年度から1間口減少し、理数科1・普通科6の計7間口となりました。

・宿泊研修（1年生、川湯温泉）

・湖陵の日（4月29日）今年からPTA総会に多くの父母に参加していただき活性化させるために休日に開催し、併せて授業公開と進路報告会も開催しました。「湖陵の日」と名付け、授業公開と進路報告会には中学校（生徒・保護者・教員）にも案内を出し、合計500人以上の参加がありました。

（5月）  
・教育実習（10名の卒業生を迎えました）。

・高体連全道大会が始まる。多くのクラブが全道大会に進出しました。

（6月）

・高体連全道大会が始まる。全道大会においては各クラブともよく健闘しました。特に陸上部の井上陽介君は男子1500mでただ1人4分を切る3分58秒50の自己新で初優勝を決めました。「将来は関東の強豪大学に進み箱根駅伝を走るのが夢」と語る井上君。釧路湖陵から初の中距離全道王者の誕生です。

以上簡単な内容となりましたが、ご容赦下さい。また、今後とも母校のため、後輩のためによく願います。（文責・渋谷倫之）



野村校長（左）に贈呈する佐久間さん（中央）と奥田さん

この日は、佐久間さんと奥田さん

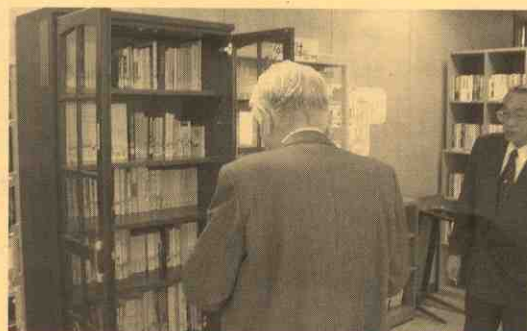
釧路湖陵高校の正面玄関前にある校歌の石碑につきましては2ページで紹介しました。石を寄贈しました相場真一さんに関係する資料が、7月6日、同窓会から湖陵文庫に寄贈されました。

相場さんと生前に親交のありました境重信さん（釧中26期・東京釧中会幹事）が、相場さんの遺族から「南米銀行五十年史」と真一さんの弟、「相場美成の生涯」の2冊を託されました。そこで、東京釧中会会長の梅津正隆さん（釧中15期）に相談したところ、「相場さんのことを、もっと同窓生や生徒たちに知ってもらおう」と、母校に寄付することにしました。

## 相場さんの資料が湖陵文庫へ

実は、梅津さんと美成さんは、釧中寄宿舎で一緒でした。また、昭和5年に兄の真一さんとともにブラジルに渡るため、第3学年を修了して退学した際、寄宿舎で送別会を行うなど、ブラジルへ渡った相場さんとの思い出を、ずっと胸にしまっていました。

寄付することに決まりましたが、なにせ釧路と東京は遠く離れています。そのことを釧路市内に住む同期の佐久間令次さんやくま



相場さんの資料が収められる湖陵文庫

ざさ編集委員長の奥田達也さん（湖陵1期）に相談しました。2人は町田康雄元校長や同窓生のアドバイスを受け、「湖陵文庫に寄贈したい」との考えを、湖陵高校に提案し、野村秀明校長に快諾していただきました。

湖陵文庫は、「湖陵高校の特色を生かし、湖陵精神を後生に残していきたい」という熱い願いから、湖陵ギャラリーとともに新校舎に設置されました。湖陵文庫は図書室内にあり、同窓生や旧職員の著書などを保存しており、職員玄関向かいにある湖陵ギャラリーには同じく絵画や書、陶芸など芸術作品が展示されています。（星匠）

が同校を訪ね、遺族からお預かりしました2冊と「在伯



## 期番当会総 だより

昭和55年に高校を卒業して24年。市役所に勤めている関係から、当然のように幹事になってしまい、初めて手伝いを命ぜられたのは10年前。その際集まった10名は同じように集まると考えましたが、最も中心的な役割を担うはずのN君が病魔に倒れ、この世を去ってしまうとは考えてもいませんでした。



7月7日に行われた合同幹事会

昨年、「32期の代表幹事をして欲しい」と同期のSさんから頼まれ、私はその美貌に負けて?「ハイ」と返事をしてしまった後、準備に何人の人が手伝ってくれるのか不安でしたが、今年に入り各クラスの代表が集まり、なんとか動き出しました。その中に現役の湖陵高校の先生A君がいたことは準備の上では大変助かりました。

毎年言われていることですが、若い世代の反応が益々悪く、「このままでは幹事を引き受けてくれる後輩がいなくなってしまう」との思いで、今後の幹事の負担軽減を図るため、総会の簡素化と大勢の方々が出席いただけるように開催日を日曜日から土曜日へ変更しました。これらの変更は同窓会役員と各期の代表幹事の方々のご理解により実現しました。

大変感謝しております。数年後、今回の変更が後の幹事の方々に良かったと思っただけであれば幸いです。

総会まであと1ヶ月。今日もこれからみんなが集まって打ち合わせです。皆忙しく、なかなか全員が集まることはできませんが、着々と進行しています。平成16年度の総会に少しでも多くの人に来ていただけるように残りの1ヶ月をみんなに頑張りたいと思います。

(32期代表 高橋一人)

## 同窓会館に 懐かしい 品々

同窓会館内に、旧校舎などにあった懐かしい品々が展示されています。昨年開校90周年事業を行いました。その一環として、整備されました。

中には、旧校舎に取り付けられていた時計や階段の柱、鍵の保管ケース、卒業生の記念写真など、当時を思い出す品々がいっぱいあります。一度訪れてみてはいかがでしょうか。



## 編集後記

今季創設されたアイスホッケー「アジアリーグ(日韓5チーム)」で地元釧路の日本製紙クレインズが緒戦をくぐり抜け1月18日に初優勝した。これはチーム前身の十條製紙(昭和29年結成)が日本リーグに参加した昭和49年以來の初優勝で地元釧路市民は30年間待ちに待った快挙に沸いた。さて本年前半の話題は年金問題である。政治家の国民年金未納がゾロゾロと明らかになり国民の政治不信が頂点に達した。警察の裏金問題や社会保険庁のネコババ問題と共に「羊の番を狼にさせ」て良いのか深刻に考えさせられた。

かの大口ローマ帝国は外敵の侵略でなく特権を維持しようとする内



(写真右手前より時計回りで)  
上岡信明・島本幸一・栗林延次  
奥田達也・星匠・佐藤文昭  
渋谷倫之・増子正樹・田卷恒利

部腐敗勢力(元老院、軍閥、パンとサーカスを要求する市民)で崩壊したという歴史家の説明と今の日本をタブラせる。年金制度が崩壊する前に日本が崩壊するかも。納涼時期にふさわしい?身の毛もよ立つコワイお話でした。

OB諸兄OG諸姉からの投稿(写真・文)を歓迎します。なお原稿に加除筆する場合もあります。投稿者は卒業年・勤務先・連絡先を明記願います。宛て先は別記「くまざさ編集委員会」まで。

(田卷恒利)

### 釧路湖陵高校

〒085-0814  
釧路市線ヶ岡三丁目一番  
TEL(0154)431-3131

#### くまざさ編集委員会

- 同窓会会長 栗林延次(湖陵十七期)
- 同窓会幹事長 島本幸一(湖陵十九期)
- 同窓会会計長 佐藤文昭(湖陵二期)
- 編集委員長 奥田達也(湖陵一期)
- 編集副委員長 星匠(湖陵三十期)
- 編集委員 渋谷倫之(湖陵二六期)
- 編集委員 増子正樹(湖陵二十期)
- 編集顧問 上岡信明(釧中三十期)
- 編集事務局長 田卷恒利(湖陵十八期)

#### くまざさ編集委員会

〒085-0814  
釧路市末広町二丁目四番地 茶屋旅館内  
TEL0154(233)0241  
手動切替FAX  
0154(233)0241